

ハーバードの医師づくり —最高の医療はこうして生まれる

田中まゆみ 著

内潟安子(東京医科大学糖尿病センター助教授)

日本の医学教育が曲がり角にきていることは周知の事実である。今日幾多の改革の旗手になる論説がある。私にとってのきっかけともなった本は、赤津晴子先生のブラウン大学医学部での医学教育について書いた「アメリカの医学教育」であった(日本評論社刊)。当時私はこの本を読んでショックを受けた。その後、ポリクリの学生が来るたびに、この本を紹介した。「日本の医学教育でアップアップ言っていたのではだめだ、アメリカの医学教育を知ってみたまえ」という気持ちからだ。いま、手許にあるこの本は手垢でよごれている。赤津先生も何度もその後日本で講演をしているし、アメリカの医学教育のその後についても書いている。

すると、またアメリカの医学教育の詳細を知ることができる本が出た。メジャーリーグにくだしい李先生の奥さんがハーバードをノックしたのだ。まさしく一流のアメリカの医学教育が明らかにされている。

アメリカで患者になった私のわずかな経験から述べると、「患者は医師と同じ土俵に居るのだ、患者と患者の上下関係をけっして感じさせない」雰

囲気に、まず感激した。とても満足感にひたれる。医師はまず自己紹介からはじめる。ここで自分が客人として遇されている雰囲気をかもし出す。個人として尊重されていることを実感する。次ぎに、身体所見を取るときけっして肌を露出させない。ガウンの下から聴診器をあてる。終わったら、ホックや紐むすびは医師がする。患者と患者の体に対する敬意がしのばれる。

教わる側(つまり学生)が侮辱を感じないように、いじめる教育から脱却する意気込み、権威や感情に流されない科学的態度で、そして教官に対しては「一人ひとりが違う人間である患者とどう相對してつきあっていくか」という視点からの再教育、これらがハーバードの医学教育のニュー・パスウェイだ。

しかし、ここで止まらない、学ぶ意欲、教える意欲が衰えないように、自己改革がなされようと日々努力しているハーバード大学の医学教育。M

●四六版 頁 240 写真 20 表 1 2002 年
定価(本体 1,800 円)

[ISBN 4-260-13887-1] 医学書院刊

「アメリカの医学教育」

●四六版 頁 179 1996 年
定価(本体 1,700 円)

[ISBN 4-535-56024-2] 日本評論社刊